

第 27 号

2019年3月29日
(平成31年3月29日)

ソムリエの風

特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会会報紙

発行 特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会
広報グループ
〒630-8217
奈良市橋本町3-1
きらっ都・奈良内NARAEGG気付

旭堂南龍さんの講談を交え「新春交歓会」を楽しく開催！



旭堂南龍さん (2/10)

本年2月10日(日)、奈良商工会議所5階大ホールで「新春交歓会」を開催し、88人(懇親会には54人)のご参加をいただきました。第1部では石田一雄理事の研究発表「鑑真和上のふるさと～揚州大明寺をたずねて」、第2部では昨年11月に真打に昇進された当会会員の旭堂南龍さんが講談を披露してくださいました。

(専務理事 鉄田 憲男)

「平成31年新春交歓会」を開催



石田理事の研究発表 (同日)

今回は会場を奈良ロイヤルホテルから奈良商工会議所に変え、手作り感覚で開催しましたが、皆さんのご協力のおかげで懇親会も含め、和気あいあいと進行することができました。

第4回Nara観光コンシェルジュ恒例の「Nara観光コンシェルジュアワード」の最終審査が2月16日(土)に奈良商工会議所で実施されました。



審査の様子 (2/16)

当会から応募した竹尾秀明さん(「王寺観光ボランティアガイドの会」にも所属)と山崎愛子さんは、ともに優秀賞を受賞。最優秀賞は「斑鳩アイセス SGG」で外国語ガイドを務めておられる八尾鈴子さんでした。



喜びの3人。中央が八尾さん(同日)

『奈良百寺巡礼』を発売

今年は和辻哲郎著『古寺巡礼』の発刊百周年、これを記念して当会は、42人の書き手による『奈良

百寺巡礼』を発売しました。これから報道発表や公立図書館などへの寄贈が始まります。詳しくは次号でお知らせいたします。



表紙絵はなかじまゆたかさん

毎日新聞「やまと百寺参り」

『奈良百寺巡礼』の発刊とあわせて、毎日新聞奈良版では新連載「やまと百寺参り」が4月からスタートします。ぜひこちらもあわせてご愛読ください。



御所市の船宿寺 (4/4 掲載予定)

祝！木村顧問が奈良県知事表彰



顧問のガイド風景 (2017/5/27)

昨年12月15日(土)、当会の木村三彦顧問が「第9回あしたのなら表彰」(県知事表彰)を受けられました。県のサイトには《「観光ボランティアガイド」として橿原市や明日香村で活動するとともに、数多くの後進ガイドを育成。郷土史家として県の「記紀・万葉プロジェクト」に協力するほか、「奈良まほろばソムリエの会」の顧問を務められるなど、幅広く活動されています》と紹介されました。

ますます充実「奈良の歩き方講座」

毎月第3日曜日に開催している奈良市観光協会主催の「奈良の歩き方講座」(各回90分、参加費500円)、3月17日(日)には拡大版として奈良市中部公民館で「特別講座」を開催しました。



特別講座(3/17)のチラシより

また5月以降は、同館内2階の30人程度収容の会議室を使って「奈良の歩き方講座」を継続してまいります。当会所属の講師が、やさしく楽しく奈良を語ります。ぜひ、ご参加ください。

「自主勉強会」にご参加を



サンスクリット語講座(2/2)

当会啓発グループが実施する自主勉強会、3月で平越真澄さんの「サンスクリット語に親しむ」が終了し、4月からは新講座「奈良の民俗文化」が始まります。講師は帝塚山大学の高田照世准教授です。『奈良山里の生活図誌』より(4/6)、「正月行事と盆行事」(5/11)、「先祖信仰と墓制」(6/8)の全3回を予定しています。

ぜひ、ご参加ください。

シリーズ「奈良県の鉄道遺産」

天理軽便鉄道



法隆寺駅前の橋台跡

現在、王寺等の西和エリアから鉄道で天理へ向かうにはJRでは万葉まほろば線で奈良もしくは桜井を経由、近鉄では田原本・平端で2回乗り換えるなどの回り道が必要ですが、かつては国鉄法隆寺駅と天理を直接結ぶ「天理軽便鉄道」が存在していました。

大正4年(1915)2月7日に新法隆寺-天理間約9kmが開通。レール幅は762mmの特殊狭軌(JR

は1067mm)で蒸気機関車牽引の列車が走っていました。しかし乗客は伸び悩み大正10年(1921)大阪電気軌道(現在の近鉄)に買収され、翌年畝傍線(現橿原線)郡山-平端の開業に合わせて、平端-天理間の電化と標準軌への改軌(1435mm)を行い、直通運転を開始。分断された新法隆寺-平端間は狭軌・非電化のまま残されましたが、昭和20年(1945)営業休止、27年(1952)正式に廃止となりました。

遺構はJR法隆寺駅近くの水路にレンガ積みの橋台跡が残り、少し歩くと、JRに沿って生活道路となった線路跡の築堤が残り、誰でも歩くことができます。

富雄川を越えると天理軽便鉄道の最大の遺構「木戸池を横切る築堤」が現れます。JRの車窓からも見え

るこの築堤は近年安堵町の文化財に指定されたため取り壊される心配はなくなりました。



木戸池築堤

これ以降、遺構はほとんど残っていませんが、現在の近鉄天理線を平端の西側にまっすぐ伸ばした道が旧線跡。この道沿いにはそれらしいコンクリート塊もありますがなんであるかは、はっきりはわかりません。また沿線の「安堵町歴史民俗資料館」にはこの鉄道を走った「ガソリンカー」の模型や、762mmの超狭軌を実感できる展示があります。(小林 誠一)

シリーズ「うまいん奈良」

自然派カフェ & レスト hanana



古都華パフェ

古都奈良にふさわしい雅なネーミングの古都華(ことか)は、奈良県で品種改良をして2011年に誕生したブランドです。奈良生まれの新しい品種としてはあすカルビー以来となり、年々人気が高まりつつあります。

奈良県のいちごは1967年頃から生産が伸び続け、1972年が最高となりました。しかし連作・病

害による生産の減少などによって少しずつ農家が減り、奈良県のいちごの知名度は他府県の産地におされて行きました。そんな状況を変えようと、県と農家が協力して生まれたのが古都華です。

現在、県内で古都華の生産量の一番多いのが生駒郡平群町です。国道168号線バイパス沿いにある道の駅大和路へぐりの農産コーナーには毎朝、採れたてのいちごがところ狭しと並びます。併設されているカフェレストランhanana(ハナナ)では、約2パック分の古都華をふんだんに使用した高さ30センチの巨大な「くまがし古都華パフェ」が女性を中心に人気を呼んでいます。誰もが驚くこのビジュアル。中には生クリームやバニラアイス、さらに自

家製イチゴジャムが入っています。半分にカットされた古都華が花びらのように飾られています。地元平群の熱意ある生産者との出会いを大切に、素材を活かしたいという思いが伝わる古都華パフェは、いちごが美味しい季節だけの限定販売です。(道崎 美幸)

生駒郡平群町大字平等寺 75-1

TEL: 0745-45-8511

定休日 12月31日～1月3日



古都華、パールホワイト、淡雪

レアスポット

御所市水泥のはしか観音



はしか観音

近鉄・JR 吉野口駅から南西に1.5 kmの、^{とがさやま}唐笠山中腹に鎮座する大穴持神社は、本殿がなく玉垣に囲まれた中に神木のウラジロガシを祀る古式の神社です。

摂社後方から山頂まで登ることができます。約20分歩くと、巨大な磐座が目に入ります。その岩の上部に縦約60 cm、横約30 cm、奥行き約20 cmの穴をくり抜き、

石仏が祀られています。「はしか観音」と呼ばれる長谷寺式の十一面観音です。

『御所市史』には「水泥の阿吽寺の奥の院の観音さんは、はしかに靈験あらたか」「昔から村の子供は、はしかにかかったことがない」とあります。その昔、命定め^の病^とされた、“はしか”にかからない為の祈りの場として祀られたのでしょうか? 地元の方に伺うと4月18日に近い日曜日に般若心経を唱え、お酒を供え、麓のグラウンドでごくまきを行い、観音様を祀っているとのこと。

ここに来るまで斜面にかかったロープを伝う所があります。軍手、登山靴が必須ですが山頂からは東の福神、西吉野方面の山々を

望むことができます。『葛村史』では鐘堂があったと伝えられていますが、現在その痕跡は残っていません。



山頂より西吉野方面を望む

鳥の鳴き声の他は、時折電車の通過音が静かに響きます。古代史跡が点在するのどかな巨勢路から足を延ばして、今でも地域に受け継がれている民間信仰の地を訪れてみませんか。

(寺田 麻美)

シリーズ「大和の伝統行事」

◆奈良市の林神社「饅頭まつり」



神前に供えられた全国からの饅頭
(2018年4月の「饅頭まつり」)

近鉄奈良駅にほど近い漢國神社(奈良市漢国町)の境内社の林神社は、林浄因命を祭神としてお祀りするわが国で唯一の饅頭の神社です。『漢國神社由緒略記』によると、林浄因は中国浙江省の人で、当時の宋から南北朝時代の貞和5年(1349)に来朝。漢國神社近

くに住み、わが国で最初に饅頭を作ったとされます。

林神社は全国の製菓団体などが昭和24年(1949)に創建。「饅頭まつり」は毎年4月19日、菓祖神・林浄因の偉業を称えるとともに、菓子業界の繁栄を祈願して行われ、全国の製菓会社からたくさんの饅頭が献上されます。



林浄因をしのび、
業界の繁栄を祈る神事(同)

饅頭まつりは全国の菓子工業組合の関係者が参列して午前11時から始まり、境内で大祭りが執り行われます。一般の人も見学、参列することが可能です。午前9時ごろから配付される饅頭引換券を受け取った人は大祭終了後、紅白の饅頭を頂くことができます。

中国では、こねた小麦粉の中に肉などを入れて作るマントウ(肉まんのようなもの)が食べられていたようです。林浄因は仏前に供えるために、肉の代わりに小豆の煮詰めたものをいれたマントウを作ったところ大評判となり、将軍家や宮中にも献上したとされ、これが饅頭の始まりと言われています。

(保存継承グループ・橋詰 輝己)

“第7回通常総会、講演会、懇親会”のお知らせ！

日時：平成31年6月16日(日)13時より

場所：奈良ロイヤルホテル

記念講演：映像作家 保山耕一氏

テーマ「奈良には365の季節がある」

みなさんぜひ
ご参加ください

<編集後記>

平成は残すところあと1か月となりました。みなさんにとって平成はどのような時代だったのでしょうか。ソムリエの風は、次の時代になっても続いていきます。みなさんのご期待に応えられるよう、楽しい記事を掲載していきたいと思っておりますので、よろしくお祈りいたします。

(広報G) 大谷・柏尾・梶尾・窪田・小林(誠)・雑賀・沢田・豊田(敏)・永井・中村・廣岡・二上・松森・吉川



特定非営利活動法人 奈良まほろばソムリエの会

事務所所在地：〒630-8217 奈良市橋本町3-1 きらっ都・奈良内 NARAEGG 気付

ホームページ：<http://stomo.jp/>

メールアドレス：info@stomo.jp

つれづれ日記(ブログ)：<http://nara-stomo.seesaa.net/>



HPのQRコード